

岩手の生協

VOL.44 2017.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



第52期通常総会は全議案を満場一致で採決



誰もが安心してらせる地域づくりへ達増知事と懇談



核兵器廃絶を岩手から世界へ！ヒバクシャ国際署名キックオフ集会



ストップ共謀罪！6・3緊急県民集会に600名参加

特集

岩手県生協連 第52期通常総会報告

～ 平和・いのち・くらし・地域・経営の「5つの危機」に真正面から立ち向かい、積極的な組合員・県民参加の運動を～

共謀罪は絶対反対！戦争させない・9条を守りいかそう！

～ 街宣行動や緊急学習会・県民集会を開催～

■ 会員生協トピックス

- ・ 大船渡市役所職員生協
- ・ 岩手県立大学生協

■ 岩手県生協連トピックス

- ・ 達増拓也岩手県知事との懇談会開催
- ・ ヒバクシャ国際署名キックオフ集会
- ・ 映画「母」県内上映の推進

岩手県生協連 第52期通常総会を開催しました

「平和・いのち・くらし・地域・経営の「5つの危機」に積極的な組合員・県民参加の運動を」

6月21日、代議員・オブザーバー・理事・監事の58人が出席し、第52期（2017年度）通常総会を開催しました。総会では、県生協連創立50周年や安保法制廃止など平和の取り組み・台風被害支援などの運動を行った「2016年度事業・決算報告」、憲法を守り・いかし核兵器廃絶をめざす取り組みや被災地支援、だれもが健康で安心してくらせる地域社会づくりなどの重点課題をすすめる「2017年度事業計画・予算」、「役員選任」など6つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。



《今年度の取り組みの基調・重点》

今、日本では6人に1人の子どもが貧困と言われ、高齢者も下流老人という言葉が注目を集めました。労働者の実質賃金は減り、生活保護世帯は過去最高を更新。一方大企業は減税が行われ、3年連続史上最高益と内部留保を持って

います。現政権は、社会保障負担が重過ぎる、医療にかかれない、介護が受けられない、年金でくらしせない、教育費が高すぎる、保育所がない、奨学金が返せないという庶民の苦しみの改善より「世界で一番企業が活動しやすい国をつくる」路線を突き進んでいます。地方の中小企業は、生協事業も含め人口減少や流出、消費の減少と労働力不足で厳しい事業を強いられています。

2012年の国際協同組合年に示されたスローガン「協同組合がよりよい社会を築きます」や、昨年の協同組合のユネスコの無形文化遺産登録は、こうした問題の解決に、協同組合の思想と実践が活かされることが期待されていること。50年の運動と事業の実績、47万人の組合員を擁する岩手の生協においても、協同組合としての明確な使命をもって組合員や地域のため

に主張や要求をし、足元では具体的な実践を積み重ねていく必要があります。中期5か年計画の中間の年として、以下の取り組みを重点にすすめます。

《みんなで取り組む重点課題》

- ① 平和・いのち・くらし・地域・経営の「5つの危機」に真正面から立ち向かう、組合員・県民参加の運動を、ネットワークを広げながら積極的にすすめます。
 - ・ 戦争する国づくりや憲法を破壊し改悪する動きに反対し、さらに核兵器廃絶のための運動を重点に、諸団体やネットワークと取り組みをすすめます。
 - ・ 被災地の要望にそった復興支援や、生活再建制度の拡充要求、地域づくりに取り組みます。
 - ・ 社会保障制度の本格的な改悪や消費税増税に反対し、くらしを守り、貧困や格差解決にむけた
- ② 生協運動・協同組合運動の果たす役割や使命を学び、話し合う取り組みを強めます。
 - ・ 生協交流会や協同組合講座を主催し、各生協間の事業や運動の相互理解を深めます。
 - ・ 協同組合間提携を一層重視し、ポストIYCに取り組みます。
 - ・ 「岩手のせいきょう物語」を発刊し、50年の歴史から、協同組合の思想とロマンを学びます。
- ③ 「だれもが健康で安心してくら

せる地域づくり」をすすめます。
 ・行政と協同のある街・コミュニティづくりをすすめます。
 ・岩手県ユニセフ協会と協同してユニセフ活動を広げます。

④会員生協の運動・事業・経営に役立ち、県内の生協への支持・信頼を広げる県連の役割・機能を強化します。

・生協間連携・提携を推進します。
 ・県生協連や会員生協の社会的活動を多くの県民やオピニオンリーダーに発信します。

《当口発言(要旨)》

ヒバクシヤ国際署名推進や協同組合学習の場を要望
 いわて生協 内澤祥子代議員



「ヒバクシヤ国際署名」について、岩手の会で50万筆、うち生協関係で20万筆、いわて生協では10万筆が目標。理事会や理事懇談会でなぜ署名に取り組みか確認し、数字の大きさにプレッシャーも感じるが、今年の重要な運動課題としているので頑張りたい。各団体とも交流しながらモチベーションアップしていけるよう、県

連にはリードして欲しい。
 いわて生協では約8000人のこぶ委員が地域で活動している。最初の頃はコープ商品を食べてみんなで勉強したり子育ての参考になる企画など楽しい活動をしているが、だんだんに自分たちの暮らしにはさまざまな問題があることに気づき、自ら関わっていかうという気持ちになる。政治は私たちの心を持つことは国民の教養だし、主婦だつて政治に興味を持つのは当たり前。今の政治や平和についても、人々の間の不公平感がつらい。「協同組合とは」ということを勉強し、みんなでやれること、やるべき事を考えて行きたい。県連には、生協交流会や講座・学習会など学ぶ場をつくってほしい。

特養ホーム「はなみずき」建設運動
 協力と健康づくりへの参加を
 盛岡医療生協 関口孝子代議員



特養老人ホーム「はなみずき」について、医療生協の設立当初からの夢がもう少しで実現できそうなどころまで来た。来年3

月のオープンに向けて介護職員も育てているが、まだまだ不足している。寄付金も後もう少しなので、みなさんにもぜひ協力をお願いしたい。

昨年引き続き、「健康チャレンジ」に取り組み。全てに取り組みの活力が低下し、健康障害を起しやすい脆弱な状態) 予防にもなるので、ぜひ参加していただきたい。また、「すこ塩生活6g未満」を提案しているので、購買生協さんのお弁当も「すこ塩弁当」を作っていただけたらと思う。

平和や核兵器廃絶の運動をすすめたい
 盛岡大学生協 金野玲奈代議員



盛岡大学生協では全国大学生協連主催の「ピースナウ」に参加している。参加者は現地体験談を聞くことで、平和に対する知識を学ぶことができる。学んできたことは報告書やポスターにまとめ、文化祭で報告する活動も行っている。6月10日には「国民平和大行進」にも参加。行進後の集会では、核兵器廃絶について学

生へ訴えていこうという決意表明をした。そのほかにも、学生委員会ではさまざまな活動をしている。これからも組合員の代表として平和について考え、きっかけとなるよう活動をすすめていきたい。

映画を通じて、被災地のコミュニティづくりと心のケアを
 みやこ映画生協 櫛桁一則代議員



2016年度は常設館が閉館となったが、映画を通じて、引き続き組合員や地域のみなさんに喜んでもらえる取り組みを実施してきた。2011年度から続く被災地巡回上映会も昨年は89回開催し、累計472回1万9、503人の方々に映画を楽しんでもらうことができた。また、地域での上映会のサポートなど、映画を通じてどんな外に出る取り組みができた。2017年度も、引き続き被災地でのコミュニティの再生、被災者の心のケアなど集まれる場所を提供する取り組みをすすめていきたいので、今後ともよろしく願いたい。

3

奨学金問題や地産地消を協力して
すすめたい

岩手大学生協 塚原英明代議員



奨学金問題について、岩手大学生協の学生アンケートでは53%が利用している。また全国の大学生協連のアンケートでは、利用者の半数が返済の目処が立っておらず、普段の生活もアルバイトに頼っている。奨学金の問題はぜひ、地域生協の皆さんとも協力しながら取り組みたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

地産地消の取り組みについて、先日も田植え体験をしたが、体験後はポスターに掲示・紹介するなど運動を広めている。約100名の学生委員会がボランティアや生協活動を通じて、みなさんと協力しながら地産地消や自分たちの食について考えて行きたい。

**組合員目線に立つことで事業を好転
岩手県学校生協 沼田聡代議員**

この10年間で学校の教職員数は2,000名減り、先生方も日々忙しく、話を聞いてもらえる時間



も無くなった。それを事業に直結させ、先生方に自分たちの話を聞いてもらう環境づくりを、関係諸団体に協力いただきながらすすめた。例えば先生方へ福利厚生制度の説明会を継続して開催し、学校校長会や教育委員会からも要請を受け昨年も500名が参加、結果共済の見直しなどにつながり、共済事業は伸びている。

そのような取り組みの積み重ねもあり、学校生協の話なら聞いてもいいよ、というところまで近づいて来ていると思う。縮小するマーケット、非常に困難な中でも、組合員一人ひとりの身に立って、寄り添った事業を組合員の目線に立ってできれば事業は好転するのではないかということを学んだ。全国で3,000万人近い組合員を持つ生協になったにもかかわらず、組合員の思いが実現されていない社会だ。生協の力が発揮できないのではないかとも思う。さまざまな問題が学校現場にも起きており、子どもたちにもその影響が出てきている。学校生協では引き続き運動をすすめる、岩手の生

協から全国の生協の動きを変えるべく、ぜひみなさんとともに取り組んで行きたい。

《意見に対する理事会からの答弁 加藤善正会長理事》

発言が提案への賛成の意見だったため、個別の回答は行わず、生協運動として重要と思う視点を補強的に述べました。

組合員の要望と事業を調和し、協 同組合らしい生協運動の発展を



政治に関心を持つことは「国民の教養だ」という発言は、とても新鮮に感じた。今、政治に関わらないものはなく、本当は政治の仕組み、実態やあるべき姿は国民が危機感を持つて考えなくてはならないが、日本はそう簡単にはいかないと思う。話し合いをすることで理解も深まると思うが、

最近話し合うこと自体、減ってきている。地域や職場で意識的に話し合う場をつくっていないか、マスコミからの情報のみで知らないことばかり増えてしまう国になってしまう。生協が人と人の組織であるならば、話し合う場をどん

どん設けて、いろんな情報を共有する取り組みをしなければならぬ。

岩手の生協は、政治的・社会的問題に他団体とも協力して取り組みをすすめている。政治色を出すと組合員が離れてしまうのでは、と心配している生協も全国には多数あるが、そうではない。岩手の生協は地域の世帯数の約半数を占めており、協同組合らしい生協運動を発展させていかなければならない。全国の学校生協の中でも、岩手県学校生協は発展を続けている。それは、やはり組合員に寄り添い、こちらから仕掛けるという戦略がうまく行っているからだと思う。組合員の力、組織の力を生協らしく、協同組合らしく発展させ、事業と組合員の要望にマッチさせ、新しく組み立て直し拡充することが大事。非常に厳しい社会情勢だが、頑張つて行きたい。

弱者になる仕組みを変える運動と 助け合う運動を両輪ですすめよう

よく生協は助け合いの組織だといいますが、誰がどのように支えるのかというと、社会的・経済的に弱い立場の人たちが助け合わないと実現できないから、やむをえず助け合っている。なぜ経済的な弱者



になっているのか本質を見抜き、仕組みを変えさせるような運動と助け合う運動を両輪ですすめないといけない。岩手の生協は「協同組合とは」をもっと掘り下げ、協同組合らしい生協、理念や価値を組合員のみなさんに深めていくのは本当に難しいが、今後とも頑張っ

新会長理事は飯塚明彦氏に決定
改選後に第1回理事会を開催。加藤会長理事の退任と県生協連顧問への就任が決まりました。新しい会長理事は、飯塚明彦常務理事（いわて生協理事長）に決定しました。



共謀罪は絶対反対！戦争させない・9条を守りいがかそう！

「戦争させない・9条壊すな！岩手の会」街宣行動や緊急学習会、県民集会を開催

政府は「組織的犯罪処罰法改正案」を、説明や議論が足りず、国の内外からも懸念を抱かれ、国民の大多数が反対する中、6月15日に参議院で強行成立させました。「平和とよりよき生活のために」を掲げる県生協連は、思想・信条・内心の自由など基本的人権を制約するいわゆる「共謀罪」に諸団体とともに抗議。今後も、県生協連も幹事団体をつとめ130の賛同団体で構成する「戦争させない・9条壊すな！岩手の会」を中心に、子どもたちの平和な未来を守るため、学習や廃止に向けた取り組みを広げていきます。

●平和を願う声を国や県へ

署名提出や県議会に請願

2016年から取り組んだ「戦争に道を開く安保法制を廃止し、新任務の撤回、憲法9条を守りいかした平和貢献を求める請願」署名運動は、3万4,922筆（6/20現在）でした。目標の5万筆には届きませんでしたが、紹介議員になっていただいた県選出の小沢一郎議員、階猛議員、木戸口英司議員を通し、衆議院・参議院各議長あてにそれぞれ請願しました。



また、共謀罪については、6月30日に共謀罪強行採決への抗議と、

廃止を求める意見書を国に出すよう岩手県議会に請願を行い、田村誠議長に請願書を手渡しました。請願では、「内容の審議が不十分で、国会軽視を断じて容認できず、県議会が国に法律廃止の意見書を出してほしい」ことを求めています。

●子どもたちのために共謀罪を許すな

「STOP! 共謀罪緊急学習会」

5月22日、「戦争させない・9条壊すな！岩手の会」幹事団体の憲法改悪反対岩手県共同センター

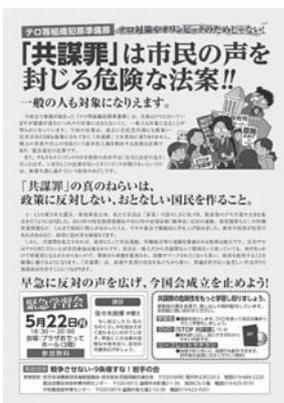
代表・佐々木良博弁護士を講師に参加180人で開催。佐々木弁護士は、戦前の戦争への道の動きや共謀罪が過去3回廃案になった経過、現在の安倍内閣の右傾化などを説明。「共謀罪は、国の施策に反対する個人や団体の監視や弾圧に利用される『監視社会』を生む可能性が大きい。原発という負の遺産を将来の子どもたちに残してしまい、さらに戦争や監視社会という負の遺産を残すわけにはいかない。反対の声を広め、選挙でち

やんとした人を選ぼう」と訴えました。岩手の会事務局から吉田敏恵県生協連専務理事が、当面の運動提起をした後、「多くの国民の疑問や反対にきちんと答えずに共謀罪法案改正に向かうやり方は、怖さと市民がものを言えなくなる社会にならないか」と指摘しました。参加者からも、「共謀罪の目的は声をあげる国民への弾圧なのは明白」「共謀罪の恐ろしさを認識不足だった。怖さがよくわかった。もっとみんなに知らせていかなければ」などの感想が寄せられました。

●学習DVD貸出やチラシ・プラスターなどのツールを作成

各地域や団体・職場で共謀罪について学習し、宣伝行動にいかそうと、ツールも準備しました。

①独自チラシ（表・戦争させない・9条壊すな！岩手の会独自、裏：あすわかかの会チラシ）。



②リーフレット「これが共謀罪です！あなたも逮捕されるかも」

自由法曹団作成。

③学習用DVD無料貸出「STOP！共謀罪」（15分）。日本電波ニュース社制作。

④学習会講師の紹介。

⑤プラスター貸出（A2サイズに1文字ずつ「許すな共謀罪」「思想罰する共謀罪」「安保法制廃止」「9条こわすな」の4種類。

●600人が怒りの声「ストップ共謀罪！戦争させない！9条壊すな！6・3緊急県民集会」



岩手弁護士会と共催で、市民・生協組合員・諸団体のメンバーなどが参加。当日は、民進、自由、共産、社民各党の代表からの激励



スピーチや、若者や女性、労働者や大学教授など、各地で反対運動に取り組む市民の代表が「戦争をとどめようとする人に犯罪者のレッテルを貼る共謀罪は許されな」とスピーチ。達増拓也岩手県知事からも、「集会が岩手の良識を国政に伝える意義あるものとなることを期待」というメッセージが寄せられました。

この日は、参議院法務委員会委員長宛の抗議ハガキも244枚集約。集会后は、デモ行進で市民にアピールしました。

●毎月19日は一斉行動

6月15日は緊急デモを実施

戦争させない・9条壊すな！岩手の会では、一昨年9月19日に強行採決した安保法制を忘れない・廃止をあきらめない行動の一つとして、毎月19日を中心に夜デモなど一斉行動を行っています。また、共謀罪が強行採決された6月15日には、緊急デモを実施。300人で抗議のシュプレヒコールをあげました。



大船渡市役所職員生活協同組合

大船渡市役所職員生協は、組合員505名、職員3名の小さな職域生協です。

小さな店舗の市役所生協ですが、震災後からは一般のお客様も増え、組合員のみならずには、朝の出勤時から飲み物、タバコ、お弁当の注文販売等でご利用いただいたり、毎日80個ものお弁当を職場まで配達し、喜んでいただいています。

毎日ワゴンには地元焼きたてパン、シフォン、サンドイッチ、サンドパン等を並べ、地元業者によるおにぎり販売も行っています。その他旬の味覚として、活ホタテ、早採りわかめ、ホヤ等、6月には生うに、佐藤錦の美味しいさくらんぼ、8月はさんま海鮮セット、11月は早生みかん、活アワビ海鮮セットなどの販売・発送もしています。他にも盆花、クリスマスケーキ、スタックドレスタイヤなど、季節に合わせた販売をしています。



店内で地元ならではの商品や特産物をアピールし、おすすめしています。

また、毎年同じ職域生協の理事、職員が集まり交流会をして意見を出し合い、交流を深めています。

小さい店舗で品数も多くはありませんが、組合員の意見を取り入れ、また来たいと思える店づくり、笑顔を絶やさず、お客様ののおかげで成り立っていると言っていることを忘れずに、日々サービスにつとめたいと思います。

岩手県立大学生生活協同組合

岩手県立大学生協では、毎年冬になると新入生の生活準備をサポートする新入生サポートセンターを開設しています。そこで、生協共済の加入手続き・住まい斡旋・家具家電・パソコン・自動車学校紹介等の充実した大学生活を送るために必要な商品等を提案しています。説明会も開催し、いずれも先輩学生がアドバイザーとして、大学での実体験等を紹介しながら提案をしています。

近年は、受験する大学を決定する前に色々な情報を集めておきたいという要望も強く、オープンキャンパス等に保護者の方が一緒においでになり、色々な話を聞いて相談していくケースが増えていきます。岩手県立大学生協でも、より充実した大学生活を送ってもらうために情報提供を行っています。

数年前から、オープンキャンパスの際に大学が設置した



紹介・相談コーナーを設け、新入生をサポート。

奨学金等の相談コーナーの横にアパート情報等紹介コーナーを作らせてもらい、来場した高校生や保護者の相談にのっています。「食事が心配」「通学方法や家賃相場が知りたい」「入学後に必要な費用」などお金や食事に関する相談が多く、一番人気だったのは、大学生の実際の月の生活費（収入支出）のポスターでした。7月2日に行われたオープンキャンパスの際には、情報冊子は90冊、相談にいらしたのは15組（35人）という結果でした。



4月25日に、県生協連から21人が参加し開催。

■「安心してくらせる地域づくりと復興を」達増県知事と懇談
 県生協連からは高齢者見守りや子ども食堂など、くらしやすい地域社会への取り組みを、いわて生協から被災地支援とくらしの支援活動、盛岡医療福祉生協から特養老人ホーム開設に向けた取り組み、盛岡大学生協から学生の生活と奨学金問題などを説明し、要望を伝えました。

活再建をすることが最大のテーマ。県民の生活向上をすすめる、社会をより良くするという思いでみなさんとともに頑張りたい」との表明がありました。

■「いまこそなくそう！核兵器」ヒバクシャ署名キックオフ集会

県生協連も幹事団体をつとめる「ヒバクシャ国際署名岩手の会キックオフ集会」は、5月14日に参加250名でキックオフ集会を開催。「2020年までに50万筆」を目標に、毎月15日の街頭署名や地域組織づくりなどを行い、署名活動を広げていきます。

ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダーの林田光弘さんの記念スピーチでは、「被爆体験は8月6日、9日だけでなく、被爆者が後遺症や偏見に悩み苦しむ、その後の人生までを考えて伝えないと、『だから核兵器を使つてはいけない』と説得力ある形で世界中や次世代に伝えられない」と説明。署名活動をツールに被爆者の声を伝え核兵器廃絶につなげよう、と訴えました。

参加者からは、「核兵器廃絶運動の大切さや次世代への継承の大事さが理解でき、やる気が出た」「若者たちの語り継ごうとする意

志にたくましさを感じ、私も一筆でも多く集めたい」などの感想が聞かれました。

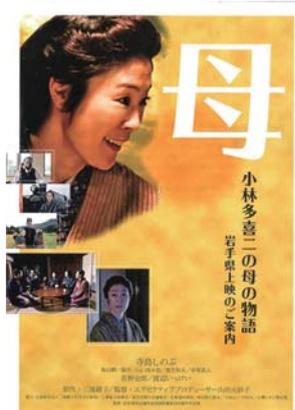
現在署名は、5万筆。県民の過半数の署名を集めるために、今後は地域住民の学習の場をつくったり、県内全首長や議長、高校などへの働きかけ、いわて生協店舗で署名コーナーを設ける等の取り組みをすすめていきます。



若者たちとのトークセッションも実施。

■親子愛を通し、言論の自由と平和を訴える映画『母』上映推進

映画「母」は、治安維持法違反の口実で拷問を受け、29歳で命を奪われた作家小林多喜二の母セキの生涯を描く劇映画。三浦綾子原作の小説をもとに、寺島しのぶ主演で製作されました。3月18日には、上映をひろめる岩手の会結成



会を開催。盛岡市では7月6日の試写会に100人が集まり、9月29日上映会に向けすすめています。

再び戦前のような時代にさせないという思いを新たにさせてくれるのはもちろん、母と子が互いを思いやる心温まるドラマとしてもいい映画です。県内のトップを切つて上映された6月17日北上市では、996人が入場（前売券1,117枚販売）。7月23日釜石市も多くの方が入場しました。その他、花巻市東和、奥州市、一関市等で上映が予定されています。

地域	日時	会場
花巻市東和	8月26日(土) ①14:00 ②18:30	花巻市東和総合福祉センター
盛岡市	9月29日(金) ①10:30 ②13:30 ③18:30	県民会館中ホール
奥州市	10月13日(金) 3回上映	Zホール中ホール
一関市	10月21日 ~27日	シネプラザ

前売券：一般・シニア・大学生1,100円
 (当日：一般・シニア1,500円、大学生1,300円、
 中高生800円)